

みる つくる がた

千葉県立美術館報

VOL. 18 NO. 1

(通巻66号)

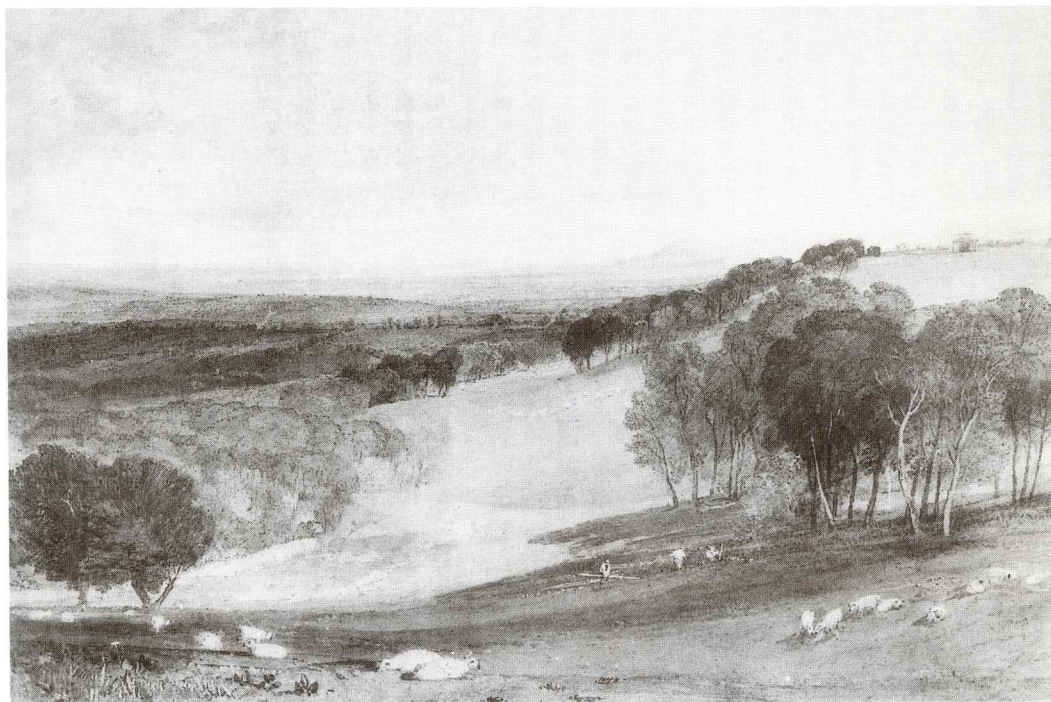
平成3年6月1日発行

編集・発行人 福田 誠

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)



J・M・ウィリアム・ターナー「ローズヒル」 1810年

(特別展「英国水彩画展」出品 フィッツウィリアム美術館蔵)

この作品は、一八一〇年、ウィリアム・ターナーによって描かれたイングランド南部サセックス州の風景です。

ターナーは幻想的な風景画の傑作を多く残しましたが、彼は、はじめこのような水彩画の制作に励んだようです。水彩は空や大地、水などの質感を出しやすく、湿潤な英国の風土に合った技法として多くの画家に好まれました。

広々とした丘に羊たちがのんびりと草を食んでいる、そんな風景がどこまでもはてしなく続いています。自然の豊かさ、美しさを画面いっぱいに描く水彩の風景画は、近代市民社会がいち早く確立した英国に始まったといってもよいでしょう。あらゆる束縛から開放され、自由な個人として自己の周囲に目を向けた時、素晴らしい自然の美がそこにあったのです。

十八世紀末から十九世紀初頭にかけての英国風景画は、やがてバルビゾン派や印象派の画家達の出現を促し、文明開化の波にゆれる明治時代の日本にもたらされ、当時の画壇に大きな感銘を与えました。

(大久保 守)

県民の日
記念事業

特別展

英国水彩画展

91.6.15(土)～7.21(日)

水彩画の歴史は古く、世界中で様々に利用されてきたが、私たちが小・中学校で習った透明感ある色彩豊かな水彩画は、十八世紀～十九世紀にかけてイギリスで培われたものです。

◆英国水彩画の流れ

イギリスでは十七世紀後半頃から十八世紀にかけて、裕福な市民階級の子弟の学問の総仕上としてヨーロッパ大陸への旅行がブームとなり、旅先での出来事や風物などの記録には、携帯が楽で取り扱いの便利な水彩画が利用されるようになりました。またイギリス各地の大邸宅の紹介や、郷土の歴史書の出版なども活発となり、挿絵に版画が使用され、その下絵としても水彩画が利用されるようになりました。

英国水彩画は、イタリアからの影響を受けさらに飛躍的

に進展します。

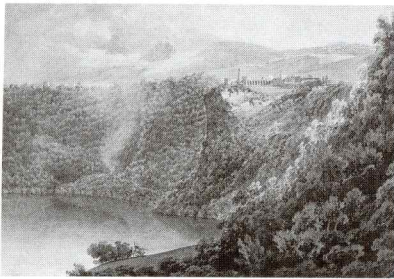
イタリア人の画家カネレッツト(一六九七～一七六八)は、一七四六年にイギリスを訪れロンドンの景観や田舎の家屋敷を描き、光の効果を大胆に捉えつつも、細部まで正確に描写する、十七世紀オランダ絵画の流れをくむ写実的な表現によって、いまだ線描をもとに適度に着色する程度であった英国の水彩画に強い影響を及ぼしました。

より高度な写実的表現が試みられる一方で、修業のためヨーロッパ大陸へ赴いたイギリスの画家たちは帰国すると、ひとつの美しさをそなえたものとしてイギリスの田園風景をみつめ直すようになりました。なかでもJ・R・カズンズ(一七五二～一七九七)は、自然の形態をとらえつつも、その雰囲気までも描きだすことをこころみ、さらに空気の

存在を意識し、広々とした空間を表現するようになりました。

英国水彩画はカズンズにより、一つの独立した絵画表現として確立されます。このため今回の特別展では主にカズンズ以降の作品を取り上げています。

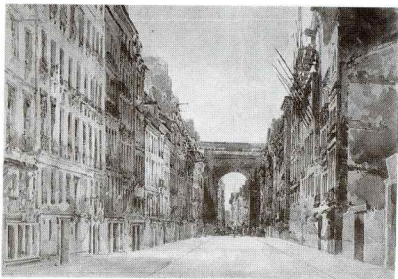
◆英国水彩画の完成者



J. R. カズンズ「ネミ湖と町」

側面をも含めることによって、単なる記録の手段から絵画表現へと高まった英国水彩画は、二人の天才J・T・ガーティンとJ・M・W・ターナーによって絶頂期を迎えます。

二十七歳の若さで夭折したT・ガーティン(一七七五～一八〇二)は、はじめ写実的傾向の作品を制作していましたが、カズンズの作品を模写



ガーティン「サン＝ドニの門と街並み」

する頃から自らの主観によって自然を捉えるようになりました。また水彩絵具の透明性を生かした重ね塗りの技法を意識的に取り入れ、直接明るい固有色を塗って制作し、実景に忠実でありながらも、さらにその場の印象までも捉えた詩情豊かな作品を残しました。

カズンズが獲得した写実にもとづく情感的な表現を、ガーティンはさらに推し進め、より高度に完成させたといえるでしょう。

本展覧会では彼の最高傑作といわれる「サン＝ドニの門と街並み」を含め、十点を展示します。

J・M・W・ターナー(一七七五～一八五二)も、ガーティンと同じく自然から直接学ぶ態度をとりました。しかし、彼は自然を前にした時の自分の印象を、その形態をとおしてではなく、そこに漂う大気の効果によって表現することに情熱を注ぎました。時代を経るに連れてその傾向は顕著となり、次第に形態が朦朧となっていくますが、同時に揺らめくような彼独自の空



ターナー「ハイデルベルク風景」

間の表現と、形にとらわれることなく交差する、輝くばかりの色彩の世界をつくりだしました。油彩画にもこの特徴はみられ、英国に限らず十九世紀西洋の風景画そのものを進歩させてゆき、特にその光と色彩に溢れた世界は、後の印象派の登場にもおおいに寄与することとなります。

ターナーの作品は二十八点を展示します。

ゲーティンとターナーにより絶頂期を迎えた英国水彩画は、その後J・S・コットマンやD・コックス等のイギリスの地方画家などにも受継がれ、幅広く展開していきます。特にコットマン（一七八二～一八四二）は、制作上 unnecessary と思われる部分は大胆に省略

し、必要不可欠な要素のみを選んで描きだすなど、自然の事物を意識的にとらえて表現しました。対象を単純化し、面的に還元した彼の作品をみれば、水彩に可能な表現の自由度がさらに広がっているのを見て取ることができそうです。彼の作品は十六点展示します。

このような流れを背景に、特別展「英国水彩画展」では、十八世紀から十九世紀にかけて、英国水彩画の発展に寄与し、優れた作品を残した代表的な二十一作家の作品一〇六点により、次第に詩的な雰囲気を含めながら、色彩豊かにさまざまな表現の可能性をひろげ展開していく英国水彩画の真髄を紹介いたします。

（中松れい）

★開館時間
午前九時～午後四時三〇分

（入場は四時まで）

月曜日休館

★観覧料

一般五〇〇円（三〇〇円）、
高・大学生三〇〇円（二〇〇円）、小・中学生二〇〇円
（七〇円）（内は二〇名以上の団体料金）

なお、六月十五日（土）の県民の日は無料です。

房総の美術家シリーズ21

安藤信哉展

91.7.27(土)～9.8(日)

房総の美術家シリーズは、房総に生まれあるいは定住して、近代日本の美術界において活躍し、美術振興のために貢献した美術家たちの再発見と顕彰をめざして実施してまいりました。

さらに同舟舎洋画研究所で小林万吾に師事したほか、日本水彩画会創立者の一人である板倉賛治に水彩画を学びました。

今年度は、その二十一回目として洋画家安藤信哉に焦点をあて開催します。

教職を辞した後の昭和四年、第十回帝展に初入選、同十三年第二回文展で特選、同十六年には文展無鑑査となり、中

安藤信哉は、明治三十年千葉県夷隅郡東海村若山（現大原町）に生まれました。幼少期を房総の地で過ごしましたが、教員であった父の転任に伴い、茨城県水海道町（現水海道市）に転居、青春期を同地で過ごしました。



「室内」

大正七年から昭和二年まで小学校教員をつとめました。その一方で当時のさまざまな洋画研究所に通い絵画研究を続けました。

大正十年本郷洋画研究所を皮切りに葵橋洋画研究所に入所、同十三年には太平洋画研究所、後川端画学校に移り、

大正十三年本郷洋画研究所を皮切りに葵橋洋画研究所に入所、同十三年には太平洋画研究所、後川端画学校に移り、

昭和三十三年日展会員となつた後、評議員、参与を歴任するなど永く中央での活躍が続ききました。

一方、本県美術界との関わりについては、昭和十一年千葉県美術協会第一回展洋画部

への出品をはじめとして、同十三年同協会第八回展紀元二千六百年奉讃展への出品がありました。昭和二十年戦火を逃れて勝浦市へ疎開、戦後、武蔵野市へ転居するまでの六年間を故郷の房総で過ごしました。房総の地を離れた後も、昭和二十四年千葉県美術展覧会（県展）第一回展に際し、運営委員、審査員をつとめ、昭和三十一年には第八回県展の抽象系洋画部の審査員として、再び本県美術界の振興と後進の育成に尽力しました。

安藤信哉は画家であるとともに、教育者としても多大な功績を残しました。

昭和十五年東京聾啞学校（現筑波大学附属聾学校）に奉職し、同三十八年に退職するまで、聴覚障害者の美術教育にあたり、その功績により昭和四十八年度のヘレン・ケラー賞を贈られました。

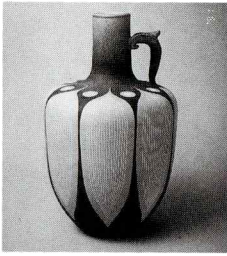
本展では、初期のアカデミックな画風から、抽象系の画風を経て、晩年の透明感溢れる画風に至るまで、安藤信哉の作品を一堂に展覧し、その画業を回顧するものです。

（田坂 浩）

特別展
近代陶芸のモダニズム

昭和二年、板谷波山、沼田一雅、宮川香山(二代)を中心に、関東在住の陶芸家により「東陶会」が組織されました。従来の京都を中心とした陶芸界に対し、この会は、伝統にとらわれない作品を発表するとともに、多くの優れた陶芸家たちを育てました。その中には本県ゆかりの宮之原謙をはじめ、横山朝陽、土肥刀泉、田中穂山、福田光山、山本正年らがあり、本県陶芸界の基礎を築いています。

本展では、東陶会の陶芸家の作品を中心に、同会を生み出した関東の陶芸の流れをも、加藤友太郎、河村靖山、富本憲吉らの作品で紹介します。(会期)十月五日(土)から十一月十日(日)まで



宮之原謙「象嵌磁木の葉文花瓶」

第十五回
千葉県移動美術館

優れた美術作品を、より多くの方々に鑑賞していただくため、毎年、県内二会場を巡回して展覧会を開催しています。日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各分野から本館の収蔵作品を中心に展示します。今年度の会場と会期は次のとおりです。

旭市民会館
十月三十日(水)～十一月十二日(火)
鴨川市民ギャラリー
十一月十五日(金)～二十五日(月)

「現代日本具象彫刻展」は優れた具象彫刻を通して、人々の心にうるおいと豊かさを育む機会とするため、彫刻作品を全国公募する企画展で、昭和59年度に第1回展が開かれ、以後ほぼ隔年で開催されました。入賞作品の多くは、県立青葉の森公園および本館の常設展などで展示公開され、県民に親しまれています。

第5回現代日本具象彫刻展
作品公募のお知らせ

平成三年度
常設収蔵作品展

常設収蔵作品展は、年間を通じて数期にわけて実施します。第一期は四月二日(火)から六月九日(日)まで「絵画にあらわれた風俗」「新収蔵作品コーナー」「書コーナー」を設け開催しています。その後は、特別展「英国水彩画展」に併せて六月十五日(土)から七月三十一日(日)まで特設コーナー「水彩画」により我が国の水彩画の発展に尽力した浅井忠、天下藤次郎など四十一人の作品一〇一点を紹介いたします。

応募資格

出身県、経歴、年齢を問いません。

応募作品

具象的傾向の彫刻作品

作品搬入日

平成3年12月14～15日

賞・入選

大賞1点、優秀賞2点
入選約60点

会期

平成4年2月1日(土)～2月23日(日)

会場

千葉県立美術館

◎応募要項等の請求、詳細は学芸課にお問い合わせください。

新収蔵作品紹介

平成三年二月一日から三月三十一日までに収蔵された作品を紹介いたします。

購入

【日本画】

若木山作

「鏡」

(紙本着彩一九五七)

田中定一作

「私の地球」

櫻井晨正作

「Carrie」

片小田栄治作

「地」(DIRTY COLLECTION)より

中野庸二作

「a ripple」

大崎善生作

「十二橋」

毛利教武作

「手」

「工芸」

香取秀真作

「銅文鉄釜」

(銅金)

「銅製罌口」

(銅金)

「銅製鼎」

(銅金)

「書」

香取秀真作

「高杯の歌」

(墨一九四六)

「父母を思う歌」(墨一九四八)
「鎌倉の歌」(墨一九五五)
「新年同詠林應制歌」(墨一九五五)

「林の歌」(墨一九五五)
「如月之」(墨一九五五)
「般若波羅密多心經写経」(墨一九四九)

「新万葉集所載」(墨一九四九)
「版画」(墨一九四九)

牛玖健治作
「天使E」(リトグラフ一九五五)

「研究資料」
「香取秀真筆葉書」(29点)
「香取秀真筆手紙」(4点)

「香取秀真筆短歌色紙」(5点)
「香取秀真・立田三朗合作」

「つつじの歌」(墨・淡彩)
「香取秀真遺品軸」(2点)
「香取秀真宛葉書」(64点)

基金取得

カミュー・コロ作
「フォンテンブローの石切場」(油彩一九五〇)

寄贈

次の資料を寄贈いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

「研究資料」
毛利武彦氏より
「高村光太郎直筆毛利教武宛葉書」(官製葉書一九九)

館長あいさつ



四月から竹内一雄前館長のあとをうけ、第七代館長に就任しました福田誠です。前任者に寄せられました以上の御指導、御協力をお願いいたします。

昭和四十九年に開館した美術館も三年後には、二〇周年を迎えることとなります。開館以来「みる・かたる・つくる」を活動の指針とし、特別展企画展などの「みる」活動以外に、美術講演会などの「かたる」活動、実技講座などの「つくる」活動にも力をそそぎ、多くの県民の方の御参加を得てきました。昨年度は、特別展「マリ・ローランサン」三四、三四〇人を含め、約二・三万人、開館以来最高の入館者を迎えることができました。「かたる・つくる」活動も、講師の方々の御熱意

と受講者の真剣な取組みとで、すばらしい成果をあげることができました。

人生八〇年時代、生涯学習時代といわれる今日、これまでの蓄積の上に美術館のあるべき姿を考える時期でもあると考えます。

佐倉市の川村記念美術館が予想をはるかに上回る入館者を迎えている様子、今後、県下各地に開館が予想される公立美術館とのかかわり、又、大型の私立美術館設置計画など変動が予想されます。

美術品が投機の対象となつていような昨今、公立美術館として資料収集を行うことが、大変むずかしくなつていきます。その中で、本県ゆかりの浅井忠を中心に収集するという方針を貫きながら厚みを増し、量の拡大を図ることを考える必要があります。

県民に親しまれる美術館として着実に歩むため、県民の皆様への御支援をお願いいたします。

情報資料室だより

特別展「英国水彩画展」

関係図書のご案内

情報資料室では特別展「英国水彩画展」関係図書として次の資料を御覧頂けます。どうぞ御利用下さい。

●英国の水彩画に関する図書

『英国の水彩画』齊藤泰三著
『巨匠の絵画技法 ターナー』W・ハーディ著

『世界の巨匠シリーズ ターナー』J・ウオーカー解説

『新潮美術文庫 17 ターナー』

●英国の美術に関する図書

『世界美術の旅 3 ロンドン物語・上』世界文化社

『世界美術の旅 4 ロンドン物語・下』世界文化社

●日本の水彩画に関する図書

『フーグマンとその周辺』重富昭夫著

『我が水彩』石井柏亭著

『水彩画家 大下藤次郎』土居次義著

『大下藤次郎紀行文集』近藤信行編

『日本水彩画名作全集』全8巻。掲載作家は浅井忠、石井柏亭、岸田劉生、中西利

雄、丸山晚霞等。

『現代の水彩画』全5巻。掲載作家は荒谷直之介、紫田祐作、三橋兄弟等。

『日本の水彩画』1、2、7、12、14、18、20巻。掲載作家は大下藤次郎、小山周次、小堀進、石川欽一郎、三宅克己等。

●水彩画の技法に関する図書

『水彩画入門』不破章著
『水彩画の技法』中西利雄著
『水彩画の基礎』森桂一、戸田健夫共著

『水彩画の描き方』丸山晚霞著
『アトリエ美術技法百科 5 水彩・パステル・スケッチ』アトリエ出版社

●英国の水彩画に関する図録

『英国巨匠絵画展』一九七五

日本橋三越

『ワイリアム・ターナー水彩・デッサン展』一九七九

日本橋三越

『ターナー展』(マンチエス

ター市美術館所蔵)一九八

五 新宿小田急

『ターナー展』一九八六 国立西洋美術館

◆開室日 火・金(祝日・休館日を除く) 12時半～4時半 貸出し・コピーサービスは行っていない。

美術講演会

本年度は、各展覧会に併せて美術講演会を5回実施する予定です。

ここに、すでに決定している特別展「英国水彩画展」の開催期間中における2つの講演会を御案内します。

ぜひ多くの方々に御参加いただき、英国水彩画の歴史的意義や魅力、あるいは、現在の日本の水彩画に見られる多様な表現方法と美についてより一層の興味と理解を深める機会としていただければと思います。

第1回

日時 6月22日(土) 2時

演題 「英国水彩画の魅力」

― 描かれた田園詩 ―

講師 友部直氏(共立女子大学教授)

第2回

日時 7月6日(土) 2時

演題 「水彩画の美と表現」

講師 戸田健夫氏(千葉大学教授・水彩連盟会員)

※いずれも会場は本館講堂で参加者数は二〇〇人を対象としています。聴講料は無料です。先着順です。



洋画講座

美術館実技講座(6月以降)

期日 6月18・19・20・22・23・25・26・27・29・30日
講師 熊谷 文利氏
定員 20人 締切 6月4日 (10日間)

陶芸講座

期日 7月3・4・5・6・9・18・20・24・27日
講師 明石 昇氏
定員 30人 締切 6月19日 (9日間)

洋画講座2

期日 7月10・11・12・13・17・18・19・20・24・25日
講師 松沢 茂雄氏
定員 30人 締切 6月26日 (10日間)

彫刻講座(木彫)

期日 8月2・3・4・6・7・8・9・11・21・22・23・25日
講師 渋谷 三朗氏
定員 15人 締切 7月19日 (12日間)

書芸講座

期日 12月4・5・6日
講師 中村 象閣氏
定員 25人 締切 11月20日 (3日間)

洋画講座3(水彩)

期日 1月22・23・24・29・30・31日
講師 戸田 健夫氏
定員 30人 締切 1月8日 (10日間)

ごあんない・実技講座

金工講座

期日 1月28・29・30・31日
講師 小林 正利氏
定員 15人 締切 1月14日 (12日間)

友の会実技講座(6月以降)

洋画入門講座2

期日 7月2・3・4・5・6・7日(6日間)
講師 根岸 茂行氏
定員 30人 締切 6月18日

洋画入門講座3

期日 12月5・6・7・12・13・14日(6日間)
講師 天野 三郎氏
定員 30人 締切 11月21日

洋画入門講座4

期日 2月12・13・14・15・19・20日(6日間)
講師 関 和彌氏
定員 30人 締切 1月29日

デッサン入門講座1

期日 8月6・7・8・9日
(4日間)



書芸講座

期日 2月25・26・27・28日
講師 根岸 茂行氏
定員 30人 締切 2月11日 (6日間)

デッサン入門講座(2)

期日 2月25・26・27・28日
講師 根岸 茂行氏
定員 30人 締切 2月11日 (6日間)

○日程、内容は変更する場合があります。

申込方法

住復はがきに、希望講座名、氏名、住所、電話番号を一講座につき一名明記のうえ、美術館講座は、美術館普及課、友の会講座は美術館友の会事務局まで。

日誌抄

2・16 特別展「マリー・ローランサン」(3・24)
2・20 常設収蔵作品展第V期(3・31)
2・23 第2回調査研究員会
2・23 第5回美術講演会(講師 瀬木慎一氏)
3・7 千葉県博物館職員研修会
3・8 美術館協議会

職員異動

平成二年度末人事異動により、次の職員が替りました。

退職者

竹内 一雄 (館長)

転出者

佐久間芳夫 (副館長→議会事務局図書室長)

豊田 浩昌 (主事→福利課主事)

転入者

福田 誠 (文化課長→館長)

葛生 久雄 (総合運動場副主査→副主査)

安西 寿子 (総務企画課主事→主事)

3・13 平成3年度第I期展示室利用団体事前協議会

3・14 関東地区博物館協会役員会

3・30 竹内館長離任式

4・1 福田館長着任

4・2 離着任式

4・16 常設収蔵作品展第I期(3・6・9)

5・16 友の会役員会

5・16 版画講座(31 講師 増田陽一氏)